

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和3年度第8回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和4年2月24日（木）16:00～17:20
- 場 所：こども病院 講堂
- 出席者：原理事長（議長）、桑野副理事長、石原理事、神坂理事、野中理事、柳澤監事、久留監事
[欠席：久保理事]
- 議 事

【議案審議】

1 議案第8号 福岡市民病院のコンピュータ断層撮影装置（CT）の購入契約締結について

<概要>

福岡市民病院のコンピュータ断層撮影装置（CT）について、前回更新から10年以上が経過しており、更新を行うもの。

<主な意見等>

- 機器が大型になったため、CT室の改修工事も併せて行うこととし、その間は、最新機器と比べると性能が劣るがレンタルCTで対応することとしている。

【報告事項】

1 令和4年度 年度計画（案）について

<概要>

令和4年度の年度計画（案）について、事務局より説明を行った。

（主な取組み）

《医療サービス》

【良質な医療の実践】

- （こども病院）「後遺症紹介先医療機関（仮称）」としての罹患後症状（後遺症）に対する医療の提供、循環器集中治療科の新設、小児薬物治療の推進、「アレルギーセンター（仮称）」の設置及び「アレルギー看護外来」の本格稼働
- （市民病院）「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」としての対応を継続

【地域医療への貢献と医療連携の推進】

- （こども病院）福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、小児在宅医療の推進や地域医療連携を継続
- （市民病院）新規開業されたクリニック等への定期的な訪問活動など、病病・病診連携を積極的に推進

【災害時等の迅速かつ確な対応】

- （こども病院）新興感染症等の感染拡大時などの有事における医療提供体制の確保に備えた「平時」からの取組みの実施
- （市民病院）感染症の知見や感染対策への取組などの情報提供を地域の医療従事者へ行う「（仮称）感染対策情報発信センター」の新設やBCP（事業継続計画）の見直し

《患者サービス》

【患者サービスの向上】

- 患者満足度調査等による多様なニーズの把握及びICT活用による利便性の向上

【情報発信】

- （こども病院）子ども向けホームページコンテンツによる年齢や発達、理解度に合わせた情報提供
- （市民病院）ホームページや広報誌、オンラインイベントシステム等を活用した情報発信や出前講座の実施

《医療の質の向上》

【病院スタッフの計画的な確保と教育・研修】

- （こども病院）ICTを活用したオンライン就職説明会やWEB研修の実施
- （市民病院）特別支援学校からの実習受入れなどによるダイバーシティの推進や、タスク・シェアリング/タスク・シフティングに向けた職員の資質向上

【信頼される医療の実践】

- （こども病院）ロボット等の導入によるCOVID-19対策の効率化や病院機能評価を踏まえた業務改善
- （市民病院）BCPの見直しによる感染防止対策の徹底や多職種によるチーム医療の推進及び患者指導の充実等

《自律性・機動性の高い運営管理体制の充実》

- 情報システムの管理やセキュリティの強化、DX（Digital Transformation）の推進などを一体的にマネジメントする体制の構築

《事務部門の機能強化》

- テーマごとの職場内研修等による効果的なOJTの実施や、職員一人ひとりのITリテラシーの向上

《働きがいのある職場環境づくり》

- 人員配置や業務の見直しなど、医師の働き方改革に向けた職員の業務負担の軽減

《法令遵守と公平性・透明性の確保》

- 情報セキュリティ研修などによる個人情報保護等の職員教育の徹底

《収支改善》

【持続可能な経営基盤の確立】

- （こども病院）医療環境の変化等を踏まえた収益確保及び費用削減、分析に基づく効率的な病院経営
- （市民病院）病床稼働率の向上や救急患者の受入れ、手術件数の増加等による収益確保及び人員体制等の最適化

【収益確保】

- （こども病院）診療報酬改定への対応確認などによる請求業務の更なる精度向上
- （市民病院）難易度の高い手術症例や紹介患者の確保、診療報酬改定等を踏まえた適切な施設基準の取得

【費用削減】

- ICTの活用による業務効率化や給与費比率の適正化、価格交渉等による診療材料費の更なる縮減

＜主な意見等＞

- 市民病院の逆紹介率の高さについては、地域医療連携として病院と開業医で役割分担しながら適切な医療を提供しており、診療後にはできる限り逆紹介を行い、また紹介していただくのが最も良い。こども病院の場合も基本的に同様であるが、開業医が診療できない場合があり、逆紹介率は市民病院ほど高くない。
- 職員一人ひとりのITリテラシーの向上は重要であり、SEとしての経験がある職員が開催するデータサイエンスの研修会は有意義な取組である。
- こども病院におけるアレルギー看護外来の設置など、医師や看護師の働き方改革に繋がる取組については、医療従事者側だけでなく、患者や患者家族の負担軽減としても効果を示せるよう工夫されたい。

2 令和4年度 予算（案）について

<概要>

令和4年度の予算（案）について、事務局より説明を行った。

<主な意見等>

- 市民病院については、補助金等収益の減のほか、診療報酬におけるコロナ特例加算分の減による入院収益の減を見込んでいるが、コロナ以外の部分を努力して入院収益の確保に努める。

3 DXの推進（案）について

<概要>

DXの推進及びその体制の確立を図るため、情報システムの整備に関して、機構全体として目指すべき姿やその実現に向けた基本的な取組みの方向性について報告を行った。

<主な意見等>

- 将来の見通しを踏まえた上で、病院の職員に意欲や目標を持たせることが重要である。ITを活用して仕事のやり方を変えていくため、教育は大事な要素である。
こういう病院にしていきたいというイメージはできていると思う。ただ、難しいとは思うが、DXによる経営への影響など、数値的な分析についても十分検討されたい。
- 今回は大きな枠組みを示したところであるが、今後、コロナや費用対効果も見据えながら、組織を整備した上で取組みを具体的に予算化していくなど、ブラッシュアップしていきたい。

4 福岡市病院事業運営審議会について

<概要>

福岡市が、福岡市病院事業運営審議会に諮問し、その答申で示された今後の市民病院における感染症医療の役割と取組みの方向性について報告を行った。

<主な意見等>

- 有事の際に要する人員体制は、平時に要する人員体制とは大きく異なる。平時からの人員確保も重要であるが、今回のコロナにおいては臨時の応援などで対応しており、柔軟性を持って有事の際にも運用できるよう、平時から大学等と相談していく必要がある。
また、BCPについても病院単体で完結できる問題ではなく、広域的な役割等を踏まえて検討していく必要がある。